



ごみ特集号

問い合わせ 環境課
 ごみ・リサイクル係
kankyous@city.inagi.lg.jp

「ごみ減量」できることから始めましょう

暮らしの中で何気なく使っているモノは、全て地球の貴重な資源から作られています。資源は、私たち人間の限りある財産です。しかし、日々の暮らしの中には多くのモノがあふれ、不要になればごみとして捨てるのが当たり前になっています。このような便利で快適な暮らしも実は資源を無駄にして、ごみを増やすという二重の環境破壊の上に成り立っています。私たちは地球環境を守り、限りある貴重な資源を有効に使わなければなりません。暮らしの中でごみを減らし、地球に優しいライフスタイルに変えていきましょう。

自治体ごとに分別品目が異なります

宅地開発や高層マンションの建設が進み、多くの方が市内に転入してきています。他の自治体から転入してきた方で、ごみ出しのルールが随分違うのとまどいを感じた方はいらっしゃいませんか。ごみの分別は区市町村により異なり、稲城市では14品目に分別し、収集しています。分別収集品目は、自治体ごとにリサイクルで回収するか 焼却炉で燃やしても安全であるか 最終処分場で埋め立て処理をしなければならないか、を判断して決めています。

稲城市のごみは埋め立てゼロって本当？

びん・缶・ペットボトルや古紙・古布のような資源物は、専門問屋などに売却し、再び製品としてリサイクルされています。燃えるごみは、クリーンセンター多摩川に搬入し、焼却しています。燃えないごみも、クリーンセンター多摩川で、いったん細かく破碎してから焼却しています。この焼却熱は発電に活用し、余熱を市立病院の冷暖房に利用する「サーマルリサイクル」を採用しています。焼却灰についてはその後灰溶融して、メタル・スラグとして資源化し、残る飛灰は日の出町の最終処分場で、ごみの焼却灰を主原料とするエコセメント化事業に利用されています。このため、市から出たごみは埋め立てられることなく、全てリサイクルされるようになっています。



クリーンセンター多摩川



エコセメント化施設

資源物を「ごみ」として捨てていませんか

18年度のごみ量は1.1%の微増でした

「どうせリサイクルするのだから、どんなものをごみで捨てても構わないだろう」と考えるのは間違いです。資源物の回収と違い、ごみとして焼却した後のリサイクルは、環境に負荷が掛かっています。18年度のごみ量は、前年度と比較して約4.2%(617t)の増量、1人1日当たりのごみ量は約1.1%(6g)の増量となっています。今後もごみと資源物の分別を徹底し、より一層のごみ減量にご協力ください。

ごみ減量のポイントはマイバッグと水切り

ごみの排出を抑制(減量)すること、分別ルールを守って種類ごとに分けて排出することで、環境負荷を軽くすることができます。すぐにできるごみの排出抑制には、マイバッグの利用による包装ごみの削減と生ごみの水切りがあります。生活の中で少し心掛けるだけで、家庭のごみ減量ができます。できることから始めてみませんか。

ごみ分別は難しい

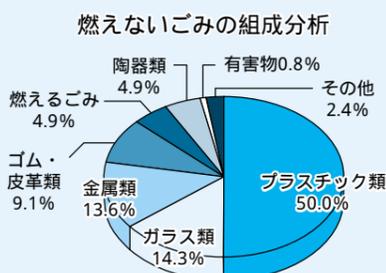
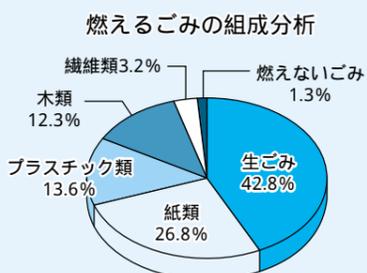
ごみ減量のポイントは、資源物や有害物の回収を活用することです。ごみと資源物の分別をより徹底することで、間違いなくごみを減らすことができます。ごみの分け方は、まず粗大ごみ(形状50cm以上)や、発火物・水銀などの有害物を除き、古紙・ペットボトルなどの「リサイクル10品目」に該当する資源物を出すと、残ったものがごみとなります。また、燃えないごみは、燃えやすくするため一度破碎機で砕いてから、焼却しています。そのため、よく難しいと言われるプラスチックの分け方も、硬いプラスチックは破碎機にかけるため、燃えないごみとして集めています。



ごみの中身を調べてみると

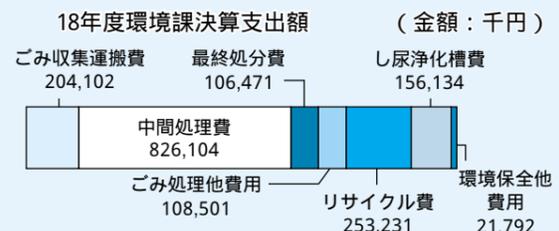
ごみの中身を調査すると、まだ、資源として利用できるものが多く含まれており、資源物として出せば、もっとごみの量を減らすことができます。市では、7月にごみ組成分析を行い、家庭からどんなごみが出されているのかを把握す

るため、ごみの種類を調査しました。結果は、燃えるごみでは、台所から出る生ごみが一番多く、次いで紙類、プラスチック類の順、燃えないごみでは、プラスチック類が一番多く、次いでガラス類、金属類の順で多く出ていました(下図参照)。



ごみ減量 = ごみ処理経費削減

18年度のごみ処理経費は、ごみ収集運搬費が約2億円、中間処理費(焼却費)が約8億円、最終処分費(エコセメント化費用)が約1億円で、合計約12億円で、ごみの量が多ければその分処理経費がかかるので、市民一人ひとりのごみ減量が処理経費の軽減に反映されることとなります。



10月は環境にやさしい買い物キャンペーン 10月5日(金)はレジ袋Nデー マイバッグ N レジ袋で エコライフ



市のマイバッグは、環境課、市リサイクルショップにて1枚200円で販売しています。



4Rがデザインされたマイバッグ

今年のマイバッグは、持ち手が伸び、一回り大きくなりました。また、赤と黒の2種類を用意し、ごみ減量のキーワードである4Rなどがデザインされています。10月は「環境にやさしい買い物キャンペーン」月間。また、10月5日(金)は「レジ袋NOデー」です。マイバッグを使ってレジ袋を減らしましょう。

4 R

Refuse(リフューズ)発生拒否：マイバッグを持参し、レジ袋を断りましょう。

Reduce(リデュース)発生抑制：詰め替え商品を利用しましょう。

Reuse(リユース)再使用：壊れたものは修理して、繰り返し使しましょう。

Recycle(リサイクル)再利用：資源とごみを正しく分別しましょう。

はずしていますか？ ペットボトルのキャップ 7割がついたままになっています

資源回収ステーションに出されているペットボトルの7割近くは、キャップがついたままになっています。市では、ペットボトルのキャップは燃えるごみとして収集し、本体は容器包装リサイクル協会に引き取られ、リサイクルされています。ペットボトルにキャップなどの不純物がついているとリサイクルが進まないため、リサイクルストックヤードで作業員が手作業ではずしています。その数は年間およそ500万個になります。ペットボトル本体とキャップの分別をお願いします。



はずして
ペット
ボトル
のキャ
ップは
はずし
てから
出し
てくだ
さい

ごみで遊ぼう in Iのまち いなぎ市民祭 環境課ブース ペットボトルのキャップで景品と交換しよう

10月27日(土)・28日(日)に開催される市民祭での市環境課のテーマは「ごみで遊ぼう」です。環境課のブースでは、ペットボトルのキャップを持ってきた方に景品を用意しています。またごみを使った遊びを行いますので、皆さんの参加をお待ちしています。

内容 ペットボトルでボーリング、缶でストラックアウト、びんで輪投げ、缶で竹馬

雨天の場合は、工作(発泡トレイで飛行機、食品トレイで動く船、ペットボトルのウォータリングゲーム)



紹介します 市民リサイクルの取り組み

大丸・都営稲城第二アパート の取り組み 資源回収ステーション

18年度から、ペットボトルを売却し、収入が得られるようになりました。容器包装リサイクル協会からの歳入金額は、各市町村のペットボトルの量と品質で評価されます。市の品質評価は、異物が少ないため、Aランクと評価され、買い取り価格も一番高くなっています。

そうした中でも、都営稲城第二アパート(大丸)の資源回収ステーションは、いつもキャップをはずし、水洗いし、

ラベルを剥がして出されており、高評価に貢献している地域の一つです。不純物が混ざるとリサイクルは進みません。ひと手間かけるだけで、ごみではなく資源物に生まれ変わります。



大丸・都営稲城第二アパートの資源回収ステーション

平尾住宅・分譲住宅自治会 の取り組み 廃食用油の自主回収

平尾住宅自治会と平尾分譲住宅自治会では、家庭からでた廃食用油を回収



廃油回収が始まったころ(昭和50年代)

してリサイクルしています。偶数月の最終日曜日に、回収業者に有料で回収してもらっています。両自治会の廃食用油回収の取り組みは、河川の水質汚濁と排水管の油汚れを防止するため、25年前から始められました。当時は市内に回収業者がなく、墨田区にある現在の業者を探して、以後付き合いが続いています。今では市内でも賛同するところが増え、ルネ稲城、稲城ハイコーポのほか、有の実、はな実屋、白べこなどの店舗も回収コースとして回っています。この回収の取り組みにより、市内では年間約5,000リットルの廃食用油がリサイクルに回ることになります。

この廃食用油回収は有償ですが、市では集団回収団体の活動に対し、1kg6円の補助金を交付しています。

長峰杜の一番街の取り組み 割り箸を集めて資源化

長峰杜の一番街のごみ集積場には、市で分別収集するごみと資源物の14品目の他に、使用済み割り箸を分別収集する箱を設置しています。集められた割り箸は、愛知県にある製紙工場に送られ、紙資源として再生されています。割り箸3本がA4判のコピー用紙1枚になります。

これは、長峰地区独自の取り組みで、地区の廃棄物減量等推進員が3年前から始め、送料は自治会が負担しています。使用済み割り箸をリサイクルする



割り箸の回収箱

ためには、きれいに洗う作業も伴いますが、このことについてもごみ減量に向けて、地域の皆さんの理解が得られるようになりました。

ごみ減量地域説明会

市環境課では、ごみ減量とリサイクルの推進のため「ごみ減量地域説明会」を開催しています。説明会では、ごみの排出量、組成分析結果、ごみ処理の流れの紹介の他、「ごみ分別クイズ」に参加していただくなど、ごみを減らすポイントをお話しています。

担当職員が会場に伺いますので、気軽に申し込んでください。

申し込み 環境課ごみ・リサイクル係 ☎378-3310



若葉台ワルツ祭での説明会